

共用自動玄関ドアの出入り履歴による「安否確認見守りシステム」を開発

企業探訪 西電通

一定期間出入りなければ管理員に連絡

遠隔集中監視センターで異常察知、早期発見・早期予防へ

高齢者の増加に伴い管理会社各社は高齢者向けサービスに力を入れ始めた。そんな中、防犯対策専門企業の西電通(本社大阪、伊藤正幸社長)が共用自動玄関ドアの入館履歴で居住者の異常を早期に察知する「安否確認見守りシステム」を開発、実用化。管理会社からは高齢者サービスのひとつの売りになると注目を集めている。

管理会社とのタイアップ進む

管理員室の電話が鳴る。通話料は不要。この、同社の「〇〇号室の方は3日間、玄関ドアの出入り履歴がないのでお知らせします」

「〇〇号室の方は病気で入院されました」

「分かりました。安否確認見守りシステムから除外しておきます。戻られましたらお知らせ下さい」

西電通の遠隔集中監視センターと、管理員

「安否確認見守りシステム」を開発、実用化。管理会社からは高齢者サービスのひとつの売りになると注目を集めている。

オートロック化と同時に無料で付加

この会話の一例だ。

西電通はオートロックになったくない既設マンションのオートロック化で豊富な実績を誇る。「テレフォンアンロック」と呼ばれるシステムで、IP電話を利用するため、住戸内配線が不要で短工期で導入できる。

居住者は予め登録した携帯電話から専用電話番号へワンコールでオートロックは解除で、

通のシステムは本営にありがたかった」(志村修繕委員長)。

「安否確認見守りシステム」は入館履歴画面で集中監視され、監視センターよりマンションへの出入り無しが3日経つと画面に黄色表示され、現地の管理員に報告される。一週間が経つと赤色表示になる。

管理員が確認し、緊急性がある場合は管理員から警察や消防、あるいは関係行政機関に連絡していただく。

現在、同システムは

大阪の4物件で稼働している。幸い、異常を発見するには至っていない。長期入院、長期出張、旅行等で黄色表示されるケースに留まっている。その場合は安否確認対象外リストに掲載、入院先や出張先などから戻ってきた段階で改めて安否確認対象に復帰する。希望があれば最初から対象外にすることも可能だ。

ロック化とのセットで導入に限られているが、現在同社ではすでに

にオートロックになっているマンションへの追加サービスとして提供できるように、ハード設計を急いでいる。共用玄関ドアでの出入り履歴で「安否確認」する同システムは、共用部分管理をメインとする管理会社の付加価値サービスに最適だと

して、同社には管理会社から問い合わせが相次いでいるという。



既設：両開き扉 → 改修 → 新設：2枚片引き自動ドア (集合玄関機)

セキュリティ(オートロック)+ONE(安否確認見守りシステム)

安否確認見守りシステム

特許出願中 特願2013-156634

初期の段階で異常を察知し、早期発見・早期予防をすることにより、元気で達者な老人作りをしていきましょう♪

